

東日本大震災の復興・防災への取り組みについて

TOPICS 1 常磐自動車道が全線開通しました

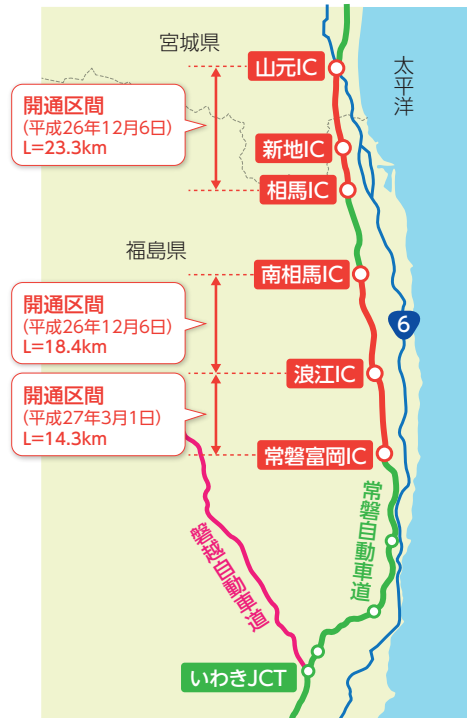
平成26年12月6日、常磐自動車道の浪江 IC～南相馬 IC間(18.4km)、相馬 IC～山元 IC間(23.3km)が開通しました。さらに平成27年3月1日には浪江 IC～常磐富岡 IC間(14.3km)が開通し、東北縦貫自動車道に加え、首都圏と仙台圏を結ぶ高速道路が完成しました。

現在、常磐自動車道の沿線市町では200件を超える復興事業が進捗中です。昨年中に開通した浪江 IC～南相馬 IC間、相馬 IC～山元 IC間および平行する国道6号での交通調査によると、開通したことにより国道6号の交通量は3割減少、旅行速度が向上し、通勤時間の短縮や復興事業関連の作業車両が計画通り運行できるようになるなど、復興事業促進の効果がみられました。

また高速バスも増便され、主に買い物やレジャーに利用されている状況が確認でき、避難生活を送られている方々からは家族や友人との行き来が増えたという声も聞かれています。

さらには、相双地域から仙台への救急搬送も所要時間が約10分短縮し、福島市の三次救急医療機関への搬送時間と変わらなくなり、仙台への搬送の選択肢が加わりました。

全線開通により、首都圏と仙台圏を結ぶ東北道とのダブルネットワークが完成し、事故・災害・異常気象時の代替ルートとして、交通の利便性がより高まるものと期待されます。



TOPICS 2 災害時の拠点にも使える道の駅がオープンしました

福島で一番新しい道の駅「あいづ湯川・会津坂下」が平成26年10月2日にオープンしました。

「道の駅」・「かわまちづくり」・水防拠点となる「河川防災ステーション」の三つのエリアからなり、地元自治体(湯川村・会津坂下町)と道路および河川管理が三位一体となった東北地方で初めての防災拠点として整備されました。

災害時や冬期交通障害時には、休憩室や交流館を活動拠点、一時避難所と活用されるほか、非常用発電施設や防災倉庫を整備、防災ステーションにはポンプ車、照明車のほか、対岸にはヘリポートも整備され、災害時の拠点として機能を発揮できることと期待されています。



国道49号と阿賀川に隣接した道の駅「あいづ湯川・会津坂下」



福島県河沼郡湯川村
大字佐野目字五丁ノ目78-1
TEL : 0241-27-8853
<http://heso-aizu.jp/>